

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時45分）

---

◇ 高柳孝博君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、高柳孝博君。

（5番 高柳孝博君 登壇）

○5番（高柳孝博君） 通告に従いまして壇上から質問したいと思います。

まず、当町の総合計画についてであります。当町は平成25年から第5次総合計画というものを作りまして、今現在歩み始めたところでございます。

総合計画につきましても、地方自治法におきまして、各自治体が総合計画を作る、基本方針を作るということで、義務化がされていたわけですが、地方自治法の改正に伴いまして義務化が解消されました。

当町は個別計画にするとか、そういったいろんな選択肢があったと思いますが、総合計画を議会の議決事項として条例化して総合計画を作るということになったわけでありまして。

したがって、今回の第5次総合計画は条例に従って作ったものでありまして、今までと違う自立できる総合計画というように考えております。自ら条例化して総合計画を作ったということはそこに意義があるというふうに考えているわけでありまして。

従いまして、総合計画に従ってしっかり進めていくということが自分たちの意思あるいは住民の意思、総合計画を作る時には住民の意思も入っているわけですので、その意思を尊重して進めるということに考えているわけでありまして。

その中で、1点、総合計画の住民参加についてであります。総合計画の中では松崎町の将来像を「一人ひとりが主役となり、活力とやすらぎと感動のあるまち」としているわけでありまして、これには住民の参加が重要なことは言うまでもありません。

従いまして、1点目は、総合計画の住民参画についてということで、松崎町の将来像を一人ひとりが主役となり、活力とやすらぎと感動のあるまち」としているが、第5次総合計画の概要版には町民・地域の役割を載せていない。町民・地域の役割をどのように浸透させ、行動に結び付けていくのか、また、第5次総合計画の初年度としてスピード感のある立ち上げが必要と考えるが、3つの重点施策においてそれぞれ特に力を入れる事業は何か。予算も進んでいるわけでありまして、予算の配分、重点的に入れているのは何であるか。そのあたりを質問したいと思います。

2点目、同じように昨年から動いている動きの中で、まちづくり委員会というのが作られたわけでありまして。

そして、このまちづくり委員会も住民参加という意味ではまったく同じように考えるわけでありまして、まちづくり委員会の目的・目標・役割がどのようなものか。まちづくり委員会の取り組み状況と今後の行動計画がどのようなものか、これについては平成24年6月に「日本で最

も美しい村」を目指したいということで講演があったわけです。その中で、まちづくり委員会を作ってやるというようなお話があったわけですが、それに基づいてまちづくり委員会が作られていると思いますので、そのあたりがどこまで進んでいるか質問していきたいと思います。

以上で壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 高柳孝博議員の一般質問にお答えします。

1. 総合計画の住民参画について。①「松崎町の将来像を「一人ひとりが主役となり活力と安らぎと感動のあるまち」としているが、第5次総合計画の概要版には町民・地域の役割を載せていない。町民・地域の役割をどのように浸透させ、行動に結びつけていくのか」についてであります。

松崎町第5次総合計画につきましては、平成25年1月開催の第1回臨時会においてご承認いただき、3月に議会や関係機関には総合計画書を、町民の皆さまには概要版を各戸配布し、総合計画における取り組みについて、ご案内させていただいたところです。

議員がおっしゃるように、概要版の中では紙面の関係もあり、総合計画書のように個別の基本計画における、町民・地域の役割の記載はないわけではありますが、将来像である「一人ひとりが主役となり活力と安らぎと感動のあるまち」づくりのためには、子どもから高齢者まで全ての人が参加し協働でまちづくりを進めることが重要である旨の記載をし、協働の必要性は訴えているところでございます。

しかし、私も当然それだけで良いと思っているわけではありませんので、広報や各種お知らせなどで積極的に広報するとともに、町の会議や各種団体開催の会議等で町民・地域の役割についてお伝えするところであり、職員においても町のスポークスマンの役割を担ってもらうことにしております。

また、後のご質問にもありますが、まちづくり委員会の皆さまにも地域の牽引役として、まちづくりの考え方を浸透していただければと考えております。

②「第5次総合計画の初年度としてスピード感のある立ち上げが必要と考えるが、3つの重点施策において、それぞれ特に力を入れるべき事業は何か。具体的な取り組み状況はどのようなものか」についてであります。

松崎町第5次総合計画では、前期5年間で特に力を入れて行う重点プロジェクトとして、「光り輝く人づくり」「安全・安心の住みよいまちづくり」「地域の魅力・資源活用」の3つを設定しております。

1番目の「光り輝く人づくり」では、定住促進のため、6月に空き家バンクを創設し、現在対象物件の募集に向けて準備を進めております。また、「日本で最も美しい村」連合加盟に合わせ、まちづくり委員会の準備活動を行っております。

2番目の「安全・安心の住みよいまちづくり」では、防災・減災体制の強化を重点とし、災害対策施設（津波避難タワー）整備については、関係地区との打合せを行っており、早期着工を目指しております。また、防災資機材（デジタル移動無線）整備と、庁舎非常用発電機整備の実施設計につきましては、入札を行い発注済となっております。

3番目の「地域の魅力・資源活用」では、耕作放棄地対策事業としてのハーブ実証栽培を行っているほか、農業後継者対策事業として新規就農者・農業後継者交付金、青年就農給付金制度を設けています。

また、鳥獣被害対策事業として補助対象の拡大や、更には「全町まるごとふるさと自然体験学校」を目指したグリーンツーリズム事業を推進しております。

2. まちづくり委員会の取り組み状況について。①「まちづくり委員会の目的・目標と役割はどのようなものか」についてであります。

現在、町は「日本で最も美しい村」連合への加盟を目指しており、行政報告でもご報告いたしましたとおり、去る6月3日・4日には加盟資格審査が行われました。審査の結果につきましては、8月下旬に内示されますが、加盟することが最終目的ではなく、加盟と同時に具体的なまちづくり活動をスタートさせることが肝要であると思っております。

こうしたことから、自分たちの町は、自分たちで良くしようという認識を持った皆さんにご参加いただき、行政と協働により「誇り」と「愛着」を持ったまちづくりを推進しようと、まちづくり委員会の参加者を公募したところでございます。

参加者の皆さんには、まちづくりのリーダーとして団体や住民の牽引者の役割を担っていただきたいと考えております。

②「まちづくり委員会の取り組み状況と今後の行動計画はどのようなものか」についてであります。

まちづくり委員会の活動には、事前の準備が必要であることから、参加者31名を対象に委員会を組織するための準備会をこれまで3回開催してきました。

第1回準備会では活動、組織、スケジュールの説明、第2回準備会では共通認識を図るため「美しいまち、松崎町をつくるために」と題して静岡文化芸術大学の阿蘇裕矢先生の講演をいただいております。

また、第3回準備会では、まちづくり活動の進め方について勉強し、6月末には具体的な組織として立ち上げ、活動していくことになっております。

委員会では、今後、自分の町にある地域資源を知るための宝探しや一番づくり活動、他団体との連携活動、ランドスケープデザインなど委員会で検討し、具体的に推進していくこととなります。

以上でございます。

○5番（高柳孝博君） 一問一答方式でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○5番（高柳孝博君） まず、1点目、総合計画の住民参画についてですが、住民が参画するのは非常に重要だと考えるわけです。

ところが、住民の方がそれを充分認識しているかということ、私が聞いていく限りではなかなか浸透していない。

総合計画の中で自分たちが何をするかと・・・、それ以前に総合計画そのものがどのように出来ているかということもなかなかご存知ない方がいらっしゃる。広報とか何かで何回もやってい

る・・・、予算にしてもそうですが、何回も出されているわけですが、それが必ずしも読まれているのではないということがあると思います。本当に興味を持たれている方は広報とか出てくれば、それを率先して読まれるんでしょ、必ずしもそうではない。そういう中で、一人ひとりが認識するという事は非常に意味難しさがあると思うんですが、そのあたりはどうしていくか、総合計画を進めていく上で大きな一つのポイントになるかだと思います。

何か事を始める時には随よりはじめよというのがあります。1点は、まず、自分たちの役場の中で総合計画計画そのものを進めていくという認識をきちっと落としているかどうか。

3年間の事業計画というのを作っているわけですが、それだけではなくて、町政というのは民間の戦略あるいは戦術と同じようにできなくて、戦略そのものは、町政というのは切ることができません。民間は切って必要な経営資源というものを集中することができるわけですが、行政はできないわけですね。

したがって、3年間の事業計画の中で、出てくる以外に総合計画で目標としている指標を出しているもの、それに向けてやっていることはたくさんあるんだと思います。それらについての日常の業務の中で、意識して向けてやっているか。これは一つ大事なことだと思います。

一つは、いまある委員会の中でお話したわけですが、指標そのものが総合計画の目標に向けた指標を出さずに出ているという場合もあります。

ですから、一つ、前から申し上げているのは、3年計画以外の指標についての考え方、それをどういうふうに予算に落としているか。そのあたりの考え方を町長、お願いします。

○町長（齋藤文彦君） この第5次総合計画というのは、松崎町の総合計画委員会の皆さんが練りに練ってくれまして、また、議会の承認を得てスタートしているわけですから、これは本当に本腰を入れて10年間いくぞというようなことで、第5次総合計画スタートにあたって、役場の職員の皆さんに・・・、「町長室からこんにちは」でも詳しく書いてあるわけですが、5S運動というのを職員に言いました。「整理」・「整頓」・「清掃」・「清潔」・「躰」、この5S運動というのを徹底して、総合計画のスタートで、松崎町役場が町民のために役立つ人が働く場所だと言われるようになるためにということで、役場の職員に話しているところでございます。

後は、課長の方からお話します。

○企画観光課長（山本 公君） 高柳議員のご質問で、住民の皆さんに協力していただくのにPRというんですか、広報も全部が見るわけではないというようなお話ですが、そういった中で、先ほど町長から回答がありましたように、各会議とか、団体の集まりなんかに出て行って、町の考え方を伝えるというのも一つの事柄だと思いますし、また、議員の皆さんにおかれましても、ぜひとも総合計画がこういうことで進んでいるんだよということを地域の皆さんにお伝えいただければ大変ありがたいと思います。

役場の職員におきましても、やはり総合計画を策定する中において、各課の意見聴取等も行って、できたものについても各課に配付は当然しておりますので、その総合計画に向かってやっていくという認識は当然しているところです。

それから、3年の実施計画、25・26・27年度とあるわけですが、その関係につきまし

ては、金額の大きいものを捨ててあるということでごさいます、小さいものについても当然一般会計予算の中に反映がされているわけでごさいます。

指標がすべて出ているかと言えば、なかなか指標を立てにくいものもごさいますけれども、総合計画に基づいた中ですべて事業の展開はしているということでご理解いただきたいと思ひます。

○5番(高柳孝博君) 1点、指標に向けて動いていると思ひますが、その進捗管理をどのようにやっているか、指標に向けてそれが出来ているかどうかというのを何で見ているかという話は以前から申し上げているわけですが、1点は、一つは政策シートみたいなものを作るかという話をしたところ、作らないという話ですので、それ以外に進捗管理は当然していかなければいけないと思ひます。そのあたりは目標に向かってどこにいるのか、現在どういふ施策がそれに向かって進んでいるか、そういった管理をどのようにされているか。町長。

○副町長(松本忠久君) ただいまご指摘のありました事業の進捗管理でごさいますけれども、特に町長が「これは重要な目玉だぞ」と各課に割り振った事業につきましては、一覧表にいたしまして各課に「毎月々の進み具合はどうなっているのか」ということで、月末に課長会議の中で報告をし合って、問題点等をチェックしているところでごさいます。

全体的な事業につきましては、予算で反映されていくわけでごさいますけれども、その進捗管理につきましても、最終的には決算ということで、議員の皆さんにご報告するわけでごさいますけれども、事業によっては松崎町みたいに財源の乏しいところについては、多分に国・県の方針等に左右される部分でごさいます、こういうスケジュールでいこうかという目標を立てましても、逆に予算の関係で前倒しになってみたり、先送りになってみたりということがありますけれども、目標はしっかり見据えてやっていきたいと考えております。

○5番(高柳孝博君) 進捗管理を重点的にやっているということなんですが、実は、行政の中では業務はすべて落とせないわけですよ。行政というのは利益があってもなくてもやらなければならないというのはあるわけですから、そういった意味では、業務の仕分けというんですかね。総合計画に載っている、指標もあると、だけど、今回は予算に載っていない、あるいは3年の実施計画に載っている、そういったものをきちんと載せて、わかるものを出して、前から言っているように基本方針からずっと繋がって、そこでやっている、だから、それに向かってやっているんだけど、今年は予算がない、付けていない、あるいは予算は付けていないんだけど、各課の中で動いているのもあるでしょう。そういったものの仕分けというんですか。それと今の進捗管理でやっぱり大事なものは、いまやっている施策がいいのかどうかということだと思ひます。

たぶん決算の時には、予算を付けたものは大体使って・・・、あるいは入札であれば入札が出なかつたから残ったということになると思ひんですが、一つは、実はもっと効率がいいやり方があったかもしれない。やることについてですね。

施策がこれでよかつたかどうかと途中でみていくくらいの管理というのは、物事には必要ではないかと考えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長(山本 公君) 当然予算の付いていないものもあります。それは予算がなくて

も事前段階で準備ができるというものもありますし、例えば、先ほどの町長の答弁の中にありました空き家情報みたいなものについては、空いている家を募集というんですか、確認をしようというような手続きも考えておりますし、それぞれ10年間の中で、この時期、補助金等の関係もありますので、なかなかすぐには出来ないものというのもございます。

ただ、10年の中でその総合計画に基づいてやっていくということには変わりはありません。

それから、いまやっているのが良いか悪いか、当然効率良くやっていかなければならないということで、町長から「5S」というようなことがありましたけれども、今までやっていることを見直して、より良いやり方でやっていくということは当然お金の使い方についてもあるわけですので、そういうことも考えながら職員はやっているという認識をしております。

- 5番（高柳孝博君） 昨年の実施計画については、3年間は出してあるわけですが、そのほかのものについてはとりあえず毎年、年が変わったらまた実施計画を作っていくというふうにやっているとします。

その時に、良かったかどうかという見直しをしなければならない。そこを何かで判定しなければいけないわけですよ。そのあたりをどうやっていくか、例えば、総合計画の中では主な取り組みというのがあるんですね。その項目そのものが予算にすべて出ていないにしても、その取り組み自体は何らかの格好で進めていくと考えるわけですが、その取り組みが今年度はないにしても、いつかそれに向かって進めていかなければならない。あるいは、むしろ今やっていることより、そっちの取り組みをやった方がいいんじゃないかということがあるのではないかと、そのあたりの判定はそのどのように考えているんですか。

- 企画観光課長（山本 公君） 総合計画の実施計画3年分については、毎年これは見直しをしているということをご承知かと思えます。

当然各課からヒアリングを行いまして、その状況については確認をし、もっとやり易い、良い効率的なやり方があるのであれば、それは見直しをしていく、あるいは財源の問題についても補助のもらえるものについては、それを活用していくというようなことでやっています。

それから、個別の事業については、予算査定等がありまして、その中で総務課長あるいは町長等の査定の中でそういった議論がされておりますので、その中でより効率的なもの、あるいは先に進めなければならないものの議論はさせていただいております。

- 5番（高柳孝博君） 事業を進めるにあたってはプライオリティーを付けるという・・・、一つは判断基準ということもあるかと思えます。事業の判断基準は住民のコンセンサスが得られるとか、あるいは法規に照らしてやるとか、上位の法規に合っているかどうかとか、そういったのをたぶん見られると思うんですが、それにしても項目そのもの・・・、やろうとした取り組みというのが、数々の取り組みというのがあるわけですね。そのあたりを、本当に住民のところに落とさないで、本当に住民一人ひとりが参加できるかというふう考えるわけです。

ですから、そのところを基本方針からしっかりと・・・、今年度は予算をやっていないんですけども、こういう項目を取り組むということをやっている。実は、この主な取り組みというのは、住民の方のところへと今のところ出ていないわけですよ。概要の方は出していませんから、ホームページとかなんかで見れば見られると言うかもしれませんけれど、なかなかホーム

ページを見る方は少ないわけですので、そういった点で、そここのところの管理の方法あるいは業務仕分けの方法、それをどういう考えでやったか。住民の一人ひとりが認識していかないと、この業務で自分たちはこういうことなので、優先的に向かっていくんだというのがわからないんじゃないかと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 総合計画策定に当っては、各種団体の皆様のご意見をいただいております。それから、総合計画委員会も・・・、今度高柳議員は総合計画委員会の方に入られておりますけれども、その中でも見直しをされていくということで、その事業の内容については、見直しをされていく・・・。各委員会等でも当然関連するものについての議論はされていくんだろうなという認識をしております。

すべてがすべて町民の皆さんになかなかお示しできないという部分はあるわけですが、それぞれ必要な事業ということの中でやっているということですので、よろしく願いしたいなと思います。

- 5番（高柳孝博君） せっかくですから、自らが作った総合計画ですので、しっかりと政策シートなり何かを作って住民にわかるようにして、そうしないと一人ひとりが主役なんて言えるんですか。それで。

私は、そうは言えないと思います。ですから、そここのところをもっと親切に事業のシートとか、そういったものを作ってわかりやすく、今年は載っていないんだけど、こういうことをやっていくんだということを示していった方がいいんじゃないか。あるいはそのシートを見ることによってやってきた施策、それがいいかどうかという判定になるのではないかと思います。そのあたり作る考えはないんでしょうか。

- 町長（齋藤文彦君） 高柳さんの言うのは理想で、本当にそのとおりだと思うわけですがけれども、町民の一人ひとりまで全部というのはなかなか難しいと思います。難しいと思いますと言ってやらないわけにはいかないわけですが、それなりのことはしないといかんと思っていますけれども、なかなか難しいのかなと・・・、内部でうまく話し合っ、うまく伝わるように考えていきたいと思っています。

- 5番（高柳孝博君） 何とか管理の方法、そして、住民に知らせる方法、それをいい方法で考えてやっていただきたい。期待しています。

それでは、2つ目、まちづくり委員会の取り組み状況についてですが、このまちづくり委員会については、24年6月、「日本で最も美しい村」を目指してという講演があったわけですね。その中でまちづくり委員会は作っていくと、住民と協働でやるようなことを書いてあるわけですが、その中に書かれているまちづくり委員会の活動というのがあるわけですね。その活動について、そのとおりやっていくのか、町として独自のやり方を進めるのか、その講演の中では、「日本で最も美しい村」イコールまちづくり委員会だというふうになっているわけですが、そのあたりの考えはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 6月に講演会がございまして、その後、まちづくり委員を募集いたしました。これは自発的に手を挙げていただいた町民の皆さんで組織しております。31名おりますけれども、これまで3回の準備会ということで、共通認識を持っていただきたいとい

うことで会議は行っております。

やはり「日本で最も美しい村」連合に加盟することが最終目的ではないよというようなことで、町長からご答弁したわけですが、やはりそこからスタートしていかないと5年後にはイエローカードをもらって加盟から外れてしまうということも重々考えられるわけですので、それに向かって町民の皆さんとともにやっていくということでございます。

それから、計画については、当然皆さんと相談をした中でやっていくということでございまして、一番づくり、今回申請書の中でも石部の棚田ですとか、あるいはなまこ壁の建物ですとか、塩漬けの桜葉ですとか、そういったものを地域資源として挙げさせていただきました。審査員の評価も、どれも素晴らしい資源であるよというような評価をいただいているわけですが、やはりそれだけではなくて、それをより高めなければならないというご指摘もいただいておりますので、それらの一番づくりの活動を増していく、それらをまちづくり委員会の皆さんと協議をしていくというようなこととなります。

4回目の会議が今月の26日に予定されておりますけれども、そこで組織等を作って、動き出していくというような形になろうかと思っております。

- 町長（齋藤文彦君） これをやると禅問答みたいになって非常に難しいわけですが、委員会の目的というのは、やっぱり最終的には良いまちをつくることだと、良いまちというのは何ぞやというと・・・、住民が自分の住む町に誇りを持って愛着を持っている町だと、これに尽きると思うわけです。

それで、誇りと愛着を持つためには何をするかというと、町がやってくれるだろう、何がやってくれるだろうと他人事ではなく私事にとすることだと、私が参加すると変なことは言えませんので、一生懸命やらざるを得ませんので、そのようなまちづくりをやっていきたいなと・・・、その委員会の目的を私はこのように考えているところです。

- 5番（高柳孝博君） 一つは、委員会の活動というのが、この講演の時には7項目ありますね。7項目ある中で、先ほどランドスケープデザインを作っていきますという話がありました。このことも出ているわけです。

それから、もう一ついま出てきたのが、一番づくり活動というのが出てきました。それ以外に飲食店・宿泊施設の食物レベルの向上とか、それから、来訪者のホスピタリティの向上、住民の健康増進に関するプランの策定と行事の実施、もう一つ、町の魅力を使ったイベントの企画と実施というのがあるわけです。

これらすべてをやろうとしているのか、あるいはこれから別途のものを作ろうとしているのか、そこを聞かせてください。

- 企画観光課長（山本 公君） 講演の時にお示ししていただいた資料ということで、いま高柳議員の方からお話があったような項目があるわけですが、いずれにしても、自分たちでやっていくということの中でこれから皆さんが考えていくということになります。

いずれにしても、ランドスケープ、景観計画みたいなものは必要なんだろうと思いますし、あるいは一番づくりの活動も必要でしょうし、あるいは食についての活動も必要だと思いますので、いっぺんには出来ないのかもしれないですが、それぞれいま委員会でも例えば分



野分けをするなどをして、項目にわたり取り組んでいきたいなと思います。

また、人から言われたからやるということではなくて、自分たちでも考えて、これが必要なんだよということの中でやっていただくような形が取ればありがたいかなと思います。

○町長（齋藤文彦君） 31人の人というのは、本当にとんがった人が多いわけで、やっぱりそれをまとめていくには、やっぱり共通認識の下地づくりということで、いま準備会を3回やっているわけですが、まだ委員会が立ちあがっておりませんので、これから活動組織を決めることになると思いますので、そのように若干遅れ気味ですが、そのようなことになっていきますので、まだ委員会としては立ち上がっておりません。準備会ですので、もう少しで委員会が立ち上がります。

○5番（高柳孝博君） 委員会の話ですが、この資料の中では委員会の考え方というのが出てまして、官・民・学の組織がよいと、これはまったく自由な発想でやれというようなことが書いてあるわけです。そのあたりの・・・、委員会を作る時に公募をされたということですが、そのあたりの考慮はどのように考えられたのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） とにかく今回は手挙げ方式で委員の方、本当にやる気のある方に手を挙げていただいたというふうに認識をしております。

活動を続けていく中で、こういう分野が必要だということでありましたら、その時点でいろんな方々に入っていただくということも考えておりますし、学校との関係につきましては、静岡文化芸術大学の阿蘇教授、景観の関係をやっておりますけれども、まちづくり等にも関わっておりますので、この先生にも入っていただいて、民間・行政・大学、そういったものの連携を図っていくということでございます。

また、内容によっては、別の大学等が入っていただくという可能性もあると認識しております。

○5番（高柳孝博君） 委員会については、講演の資料では非常に厳しいことが書いてあるわけですね。「発言し、活動に参加しなければ委員が入れ替わる真剣な委員会になる」というようなことで、かなり真摯に考えなければいけないと思うわけです。

これには町長、副町長は入ってきているのでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 委員会ではなく準備会ですけども、私は出ています。

それで、「日本で最も美しい村」連合の審査員、連合資格委員会の皆さんが4名来られて、松崎の町を見ていただきまして、なまこ壁というのは、これは松崎の本当の財産だから、これをちゃんとしていくにはやっぱり行政がリーダーシップを発揮しろというようなことを言われています。

ですから、委員会の人になんといえますか・・・、どうしても縦社会ですけども、松崎の役場を縦断して、本当に5年後にこういう町をつくるんだという組織をちゃんと町の方でも立ち上げていかないと、5年後に間に合わないと思っていますので、これから委員会と一緒に町でもそういう委員会を立ち上げて、これには本当に商・工・観も入ってもらい、銀行さんも入ってもらい、町はこういうデザインを作るためにそういう委員会を立ち上げていかなければ、これからは非常に難しいかなと感じるところでございます。

○5番（高柳孝博君） 実行するのは確かに住民の方たちが入ってやらなければ、これはできないということだというふうに思うわけですが、ただ、方針的に町がこのいまの7項目をやるかどうかというのは決断しなければならない。あるいはもしこのことを重要だと思うのであれば、提示して行って、それを実行するにはどうしたらいいか。とにかく、行動に移さなければ何も起きないわけですので、その行動計画を作っていかなければならない。しかも、それが5年・・・、美しい村連合に加盟していくためには5年で充分だと思いますが、この美しい村連合をバネとして町を活性化するというのであれば、5年と言わずに、早急にそれを進めていく、そして、効果があるということであれば、早ければ早いほど効果が出るわけですので、そのあたりを考えていく考えはないですか。どうですか。

○町長（齋藤文彦君） 審査員の方で、カルビーの相談役の松尾さんも来て、話をしたわけですが、松崎町は資源があり過ぎてなかなか難しいというようなことを言われたわけですが、先ほど藤井要議員の時に答えたわけですが、若干足りないところがあってちょっと付け足すわけですが、明治年間文化でまゆ取引が最も盛んな所は松崎市場であると、それで、生繭になるのが非常に早いからということで、新まゆの標準となり、松崎相場というのが出て、この松崎の商人の方たちは非常に利益を得たと、併せて木炭などの換金価値の高い作物も一緒に東京、沼津等に輸送して、経済的に豊かになった。それでインフラ整備といいますか、河川とか道路、橋とか学校が松崎は本当に充実したと、その中になまこ壁の建物があるわけですが、本当にこの松崎の歴史ですので、このなまこ壁というのを松崎のこれからもまちづくりの中心にもっていかなければならないと思っています。

また、主要燃料であった木炭が、燃料がガスに変わって衰退したわけですが、その山に植えてあった大島桜を畑で栽培するように松崎の人がして、桜葉の生産日本一になっているわけですが、この桜葉となまこ壁というのはこれからのまちづくりの中心になっていくと私は思いますので、そのような形で、私の考えとしては進めていきたいと思っています。

また、蚕が食べているのが桑ですから、今度午後から土屋議員の方から桑の葉っぱの話が出てくると思うわけですが、そのようなことも一緒に絡めていきたいと思っています。

○5番（高柳孝博君） この委員会は何をやっていくのかももちろん議論するんですが、行動する人は、この委員会の人たちがやっていくということなんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 委員会の方々でやらなければならない場合もあるでしょうし、その委員会の方々は団体に属している方々も入っております。

ですから、団体に戻っていただいた中で波紋を広げていただくと言うんですか、大きくしていただく活動もやっていただければと考えております。

それから、目標の期間ということでもあります。最長で5年、一番長くて5年で見直し等がある。その間に目標設定をして、7つになるのか、別のものが加わっていくのかということはありませんけれども、それはまた委員会の皆さんと相談をした中で決めさせていただきますが、最長、一番長くて5年の中でどの程度まで達成するかということを含めて協議をさせていただきたいと考えております。

○5番（高柳孝博君） 1点お聞きしたいのは、来訪者へのホスピタリティの向上というのがあ

ります。これは結構大事なことではないかと思っています。

観光地が景色がいいというのは当たり前で、今は観光はそういう所ではなくて、それ以外のところに来ているんじゃないかと思っています。生活のライフパターンが一時余暇に移ったと、余暇に移った時にはレジャー的なものでいいと思うんですが、それ以外にこの美しい村を売るとなると、日本で一番にならないと本当にみんなが来るということにはならないと思いますし、それにはやはりもう一つは、今の資源があるということはもちろん大事でしょうけれども、その資源に対して住民がどれだけ関わっているか、そして、来る方に対してどういうホスピタリティ、つまりおもてなしがどうできるか、これが非常に大事だと思うんです。おもてなしというのは、今の委員会だけではもちろんできないことで、これこそ本当に住民が盛り上がりやらないとできないところではないかと思いますが、このホスピタリティをやるという考えはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 非常に難しい問題で、これは役場がやれと言ってもなかなかできないわけですが、松崎町は歴史・文化・景観・環境・自然という大きな輪があるとして、中にその人々の関わりがあって、それが何と言いますか・・・、その心根の優しさというのが、自然・環境・文化とかに反映されていくものだと思いますので、いまコミュニティが非常に劣悪化、だんだん人が少なくなって非常にさびしいわけですが、ここを充実させることがそういうことに繋がっていくことだと思っていますので、そういうことをうまくやりながらやっていきたいなと思っています。

○企画観光課長（山本 公君） おもてなし、ホスピタリティの関係でご質問がありましたけれども、観光協会あるいは商工会等々お客さんの対応とかの中でおもてなしの部分というのは非常に重要であるわけです。

町民の皆さんにおきましても、やはり人が資源ということの中で、過去に観光客に対して松崎町の子どもがあいさつをしてくれたよというようなことがございました。非常に感動している町だなというふうに思ったわけですが、道で観光客が歩いていた時に、例えば、声を掛けてあげるとか、そういった運動に繋がっていけば、松崎町は本当に優しい方がいる町なんだなということも起こるかと思いますので、そういった部分もまた美しい村・・・、美しい村に入る入らない以前のそういった対応ができるような形の中でやっていければいいかなと思っています。

○5番（高柳孝博君） 「日本で最も美しい村」というのが形になってくるというのでいいと思います。実は、それでなくてもこれを揚げてあることは本来そういう資源がある以上やっていたかなければならないことなんです。本来はね。

だけど、これを「日本で最も美しい村」にするということはすごく大変なことだと思います。だから、この中では担当者とまちづくり委員会の方がやるようなことになっているんですが、むしろ特命的に例えば、副町長が責任を持って担当するんだ。あるいは「こんな一つ二つじゃなくて全部やるぞ」あるいは「もっと足してやるぞ」くらいの心意気があってもいいのではないかと思います。そういう企画的なもの、そういったもの、あるいは管理していくもの、そういったものをきちっと見ていくという意味では、担当課だけでやるというのが本当にいいのかどうか

というのがあります。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

- 副町長（松本忠久君） 議員がおおせのとおり大変大事な問題で、どちらかというと今後の松崎町の運命がどうなるかくらいの取り組みをしていかないと、なかなか前に進めない問題だと考えております。

それで、これからのまちづくり委員会の出発点というのは、どういうことかというのと、幸民さんも言うんですけども、「みんなでやろうじゃ」と昔子どもの時代に、我われの子ども時代に丸くなって地べたに座っているいろいろけんかをしたり、遊んだりしたように「みんなでやっっていこうよ」と「やろうじゃ」というような雰囲気でのまちづくりが進められたらいいなというようなことで話すわけですけども、誰が責任者でということになってしまうとやっぱりほかの人はどうなんだと傍観者になりやしないかというようなことにもなりかねませんので、やはり事務局は事務局としてありますけれども、みんなでやるというのが今後の進め方、基本方針というふうに捉えています。

- 5番（高柳孝博君） みんなでやるというのはよくわかりますが、ただ、何か物事をやる時に、リーダーシップをもって引っ張らないとなかなか動かない。これは私の体験の中ではそういうように思います。何かイベントをやろうとしても、何がなんでも進めるんだと、出来ないということはどうしたら出来るんだと、そういう考え方を持って・・・、これは目標を作られるわけですよ。ランドスケープデザインの検討とガイドラインというのが作られるわけですから、それがランドスケープデザインというのが基本計画になって、それに向かって進むということです。ですから、そのランドスケープデザインというのをきちっと作って、それに向かうにはどうしたらいいか、どういうスケジュールでやったらいいか、どういう人が入っているか。いわゆる人・物・金をどうつぎ込むかということをしちっと進める。みんなで「どうしましょうか」、「どうしましょうか」というのはいいんですけど、実際に5年経った時に、審査があるわけですね。その時にきちっとそれを答えられるようにしなければいけないし、そういうことはそのデザインに向かってこのようにしてやってきましたということが明快になっていなければいけないと思います。

それと、途中でそのままではだめだぞというのをどこで判断するか。きちっと判断して、このままではだめなので、何がだめなのか。人が足りないのか、物が足りないのか、金がないのか、そのあたりをきちっと管理していかないとやはり審査の中では何をやってきたのかということになる。ぜひこのもの自体は非常に花とロマンの里を明確にするというような意味で有効だと思っています。まして、町の活性化に向けて住民、それから、先ほど・・・、学も入っているようですから、産・官・学一体となって松崎町をどうやっていくか、具体的に進めるところだと思っていますので、そのあたりは管理の方法とか、そういうのもきちっとやらなければならないと思うわけですが、そのあたりはいかがでしょうか。

みんなでやっっていきましょう、どうしていきましょうということではなくて、もうやるということは目標に定めるわけですね。その定めた目標にどう向かうかと考えた方がいいんじゃないかと思います。それに向けてどういうことをやっていくか、その議論が必要じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（稲葉昭宏君） 高柳議員、時間はどうですか。

○5番（高柳孝博君） 締めます。

○町長（齋藤文彦君） 高柳議員の言うことは本当にそのとおりだと思って、やっぱりリーダーシップを取る人がいなければいけないと思っています。やっぱりそれは町長がやるべきだと思っています。

ただ、私も12月には任期になりますので、でかいことが言えませんので、それは町長がやるべきだと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） まとめてください。

○5番（高柳孝博君） 時間もきましたので、町長の今のやるべきだという固い決意をいただいたわけですので、ぜひこれを進めていただきたい。たぶん住民の方はどこまでわかっているかわかりませんが、この7つのことをやると言い出したら、住民の方の期待も大きくなるのではないかと思います。そのあたりを含めて期待をして、ぜひやっていただけるというふうに期待して質問を終わりたいと思います。

以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で高柳孝博君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前11時33分）

---